

**和歌山県立医科大学薬学部新築に伴う
和歌山城跡発掘調査
現地説明会資料**

平成30年9月22日(土) 13:30~15:00

公益財団法人
和歌山県文化財センター

和歌山市岩橋1263番地の1 TEL: 073-472-3710
FAX: 073-474-2270



調査区（手前）と和歌山城（北から）

はじめに

和歌山城跡は和歌山市の中心地に位置し、おおよそ堀で囲まれた旧三の丸を範囲とする遺跡です。調査地は堀を挟んで和歌山城の北側に位置する旧伏虎中学校の敷地で、周辺は付家老をはじめとして紀州徳川家の重臣の屋敷地跡が集中しています。また、和歌山城は江戸時代初期には浅野家が城主で、16世紀末頃の織豊期には桑山家が城代を務めていました。

発掘調査は和歌山県立医科大学薬学部新築に伴うもので、昨年11月から今年12月の期間で実施しています。調査面積は約4,200㎡で、調査区は1～4区の4区画に分かれます。1区と2区、3区と4区を反転して調査しており、これまで1区と3区の調査が終了し、2区と4区の調査を現在行っています。調査地付近は、江戸時代に描かれた絵図などから窺うと（図1）、1・2区が津田家・田宮家、3・4区が海野家の屋敷地であったことが分かっています。

調査の成果

調査区付近の標高は約5mで、地表から約4m余り下まで掘り下げて調査しています。基本的な層序は、上位層には江戸時代以降現在の地表まで約2mにわたる整地が繰り返し行われており、その下層には自然（風成）堆積した砂層があり、その砂層の下位に16世紀末頃の織豊期の遺構面があります。織豊期の遺構面の下位には中世の畠や水田の耕作面が確認でき、さらに下位には古代・古墳時代の遺構面が存在します。

江戸時代の遺構は、浅野家・紀州徳川家の家臣の屋敷地に伴うもので、礎石建物や土塀基礎・石積み排水溝・井戸・塵芥処理穴（ごみ穴）・埋桶・溜桝・半地下式倉庫・蹲踞（つくばい）・竈（かまど）などの遺構が検出されています。半地下式倉庫は、かなり破壊されていましたが、長さ5m、幅2mあり、使用していた石材には城の石垣に使用するような大きなものが多く、矢穴や刻印が認められました。また、竈にはいくつかのタイプがあります



2区 江戸時代の礎石建物（北から）



4区 江戸時代の遺構面（西から）



1区 江戸時代の半地下式倉庫（東から）



1区 江戸時代の半地下式倉庫石材の刻印



4区 江戸時代の蹲踞（つくばい）（東から）

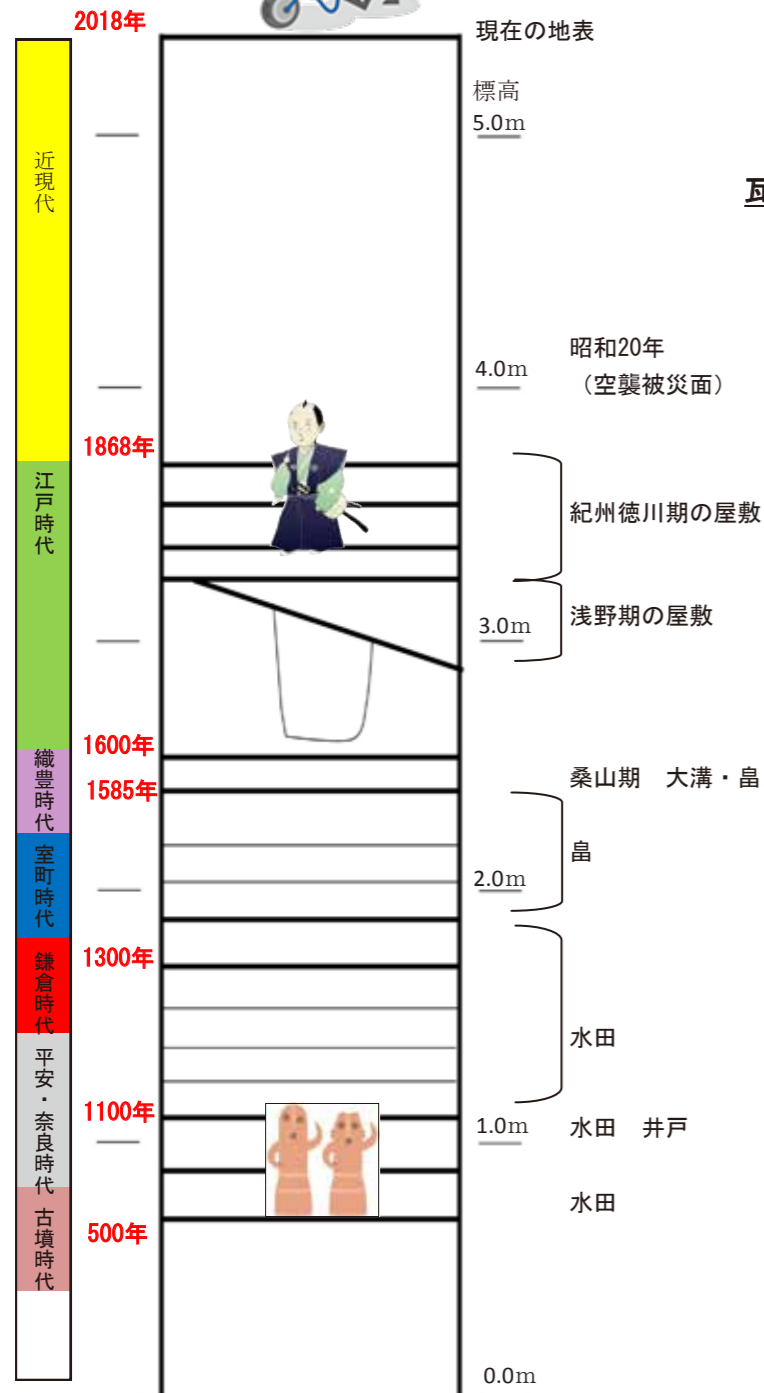


4区 江戸時代の半地下式竈（上空から）

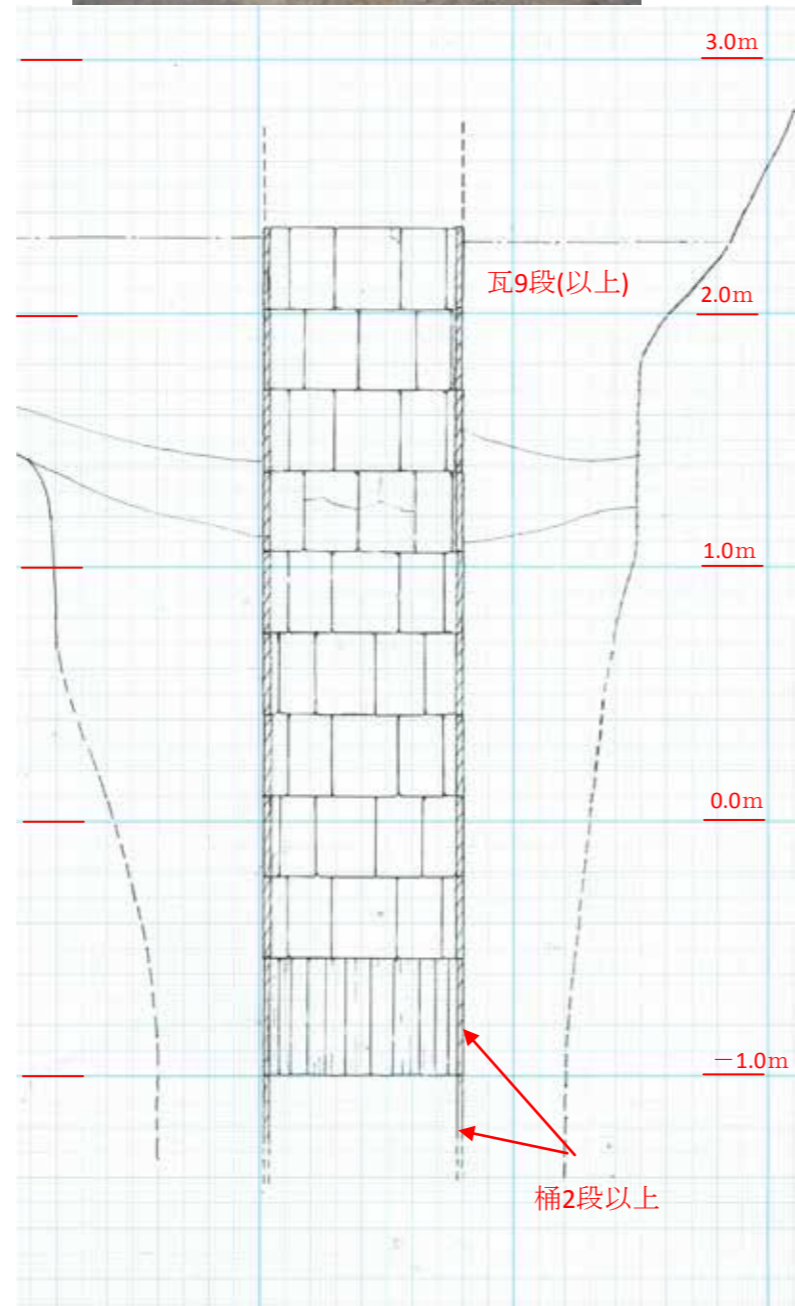


図1 城下町絵図と調査区（赤塗の範囲）
（南側が1・2区、北側が3・4区）

1区の堆積状況



瓦積み井戸



井戸

江戸時代の井戸は、これまで約40基検出しています。これらの井側には瓦積み・石積み・桶・曲物などがあります。深いもので標高-1.0m以下まで掘り下げていますが、地盤が弱いことから構築は難しかったと考えられます。

が、それらのなかに大形の半地下式構造の竈があります。これは直径約0.85m、深さ約0.7mの竈を2基併設したもので、大釜が使った作業がおこなわれていたことが想像できます。江戸時代の遺物には、多量の国産陶磁器や銭貨、鉄製品、木製品などがあり、なかでも17世紀初頭頃の唐津焼や織部焼・志野焼などは多く出土しています。

織豊期の遺構には大溝・井戸・土坑のほか畠の畝などがあります。遺物には備前焼のほか中国製の染付などがあり、桑山期の和歌山城下町に関わる遺構や遺物の可能性があります。大溝は、各調査区を縦断するように北北西-南南東方向に走ります。規模は幅8m以上あり、壁の立ち上がりは急で深さは一定でなく、水が流れた痕跡も確認できませんでした。大溝の東側に遺構・遺物が集中することからも織豊期の城下町の内外を区画する堀であった可能性もあります。

平安時代から室町時代では、井戸のほかに耕作に伴う畠の畝や鋤溝・畦畔・水路と考えられる溝などを検出しています。調査区付近は畠や水田などの生産域であったと考えられますが、瓦器、黒色土器、土師器、須恵器などが出土しており、井戸の存在からも直近に集落が存在していた可能性があります。遺物のなかで特筆できるものとして古代の蓮華文軒丸瓦があり、付近に文献などには登場しない寺あるいは官衙（役所）が存在した可能性があります。

古墳時代の遺物としては、須恵器・土師器・埴輪などがあります。埴輪はこれまでも和歌山城周辺で出土例があり、周辺に古墳や集落の存在が窺えます。

今回の調査によって、江戸時代の武家屋敷内の様子や生活の内容を垣間見ることができる資料を得ることができました。同時に、江戸時代以前の当地域の土地活用の変遷を知り得たことは大きな成果と言えます。



2区 織豊期の大溝と畠 (上空から)



2区 織豊期の畠の畝 (北から)



3区 平安時代の水田と畦畔 (東から)



古代の瓦：左側が蓮華文軒丸瓦 (復元径18.0cm)